

編集後記

* 本号は、復本一郎先生の御退任号。「麒麟」の現会員がほぼ全員参加して先生をお送りできることは嬉しい限りである。

* 本研究誌はまさに復本先生が創められて以来十八年を歴る。編集子は、引き継ぐ上で、心細く、その任に堪え得るか未知数だけれど、先生が築き上げられ内容の充実した、とりわけ先生の「なよりの思い出、なよりの財産」である本研究誌が今後とも存続できるよう力を尽くしていきたい。会員諸氏、お力添えをくださいますようお願い申し上げます。

* 先生は、神奈川大学経営学部創設以来のスタッフのお一人。潜越ながら申し上げると、先生は、学部にも多大な貢献をされ、学部にとつて至宝そのものであった。先生に、二十年という長年に亘りご指導をいただいた者にとって感謝の念に堪えない。今後は警咳に接する機会が減るかもしれないが、可能な限りお目にかかりご指導を賜りたい。本音を言えばもう少し欲しかった。それだけに、お送りすることとは感慨無量であり、淋しい限りである。

* やや早い御退任は、俳文学者としての先生の研究の方向性が定まっているからこそだと思われ、頭が下がる思いである。心より、御加餐をお祈りする。

* 学部長をはじめ教授会のスタッフ全員のご理解によつて、人文系研究誌としての「麒麟」の号数を重ねることができていることに關して、深く感謝申し上げます。今後ともご支援を賜りますようお願い上げる。

* 「麒麟」は、あくまで学部全教員に開かれた研究誌。関心のある方は、是非ご参加いただきたい。(K)